

# 事業評価シート（平成23年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他 】【協働： _____】		
目的・目標		事業の概要	
地域の埋もれた情報を掘り起こし、発信することにより、市民の知的満足が得られています。		市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動などを実施します。	

## 2. 事業の検証

活動指標①	指標名	行事開催回数			単位	回
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	実績	372	342	353		
活動指標②	指標名	テキスト作成部数			単位	部
	説明・算定式	教育活動用テキスト作成部数				
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	実績	240	253	276		
成果指標①	指標名	博物館行事参加者満足度			単位	点
	説明・算定式	5段階評価のアンケート				
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	実績	4	4	4		
成果指標②	指標名	教育活動参加者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	実績	7612	6078	7078		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成23年度の主な取組と成果						
新規事業として開講した平塚学講座や、更新したプラネタリウム投影機の新たな機能活用により、利用者層を広げることができました。古代生活実験活動や古文書資料の裏打ち補修等、市民が主体的に行う活動も継続して実施し、地域博物館の目標に対し十分な成果がありました。これらの活動の成果は博物館文化祭で公表され、また地道な継続が特別展「星々のみちびき」に結実しました。						
平成23年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	夏季の節電で様々な不便を生じながら、各種行事の合計参加者数は多く、市民ニーズの高さが読み取れます。学習機会の提供には、公平性への配慮、稀少性の尊重なども重要で、市場原理になじまない点があります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	博物館の教育普及活動は内容が濃く、また事業を通して市民と継続的に行なった調査が特別展に結実し評価され、他の会の刺激にもなっています。博物館文化祭での発表内容の質は年々向上しています。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	各種の講座、観察会等に参加した市民が、そこで得た知識や技術で学芸員の事業を助けており、受益者が活動に貢献する仕組みができています。活動の専門性、魅力の担保のため、学芸員が分野ごとに必要です。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	他課との関連業務等で学芸員の事務量は増大しているものの、教育普及活動に参加し知識技術を得た市民がサポートし、補っています。業務プロセスに市民参加が活用されています。	● 高 ○ 中 ○ 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 継続して実施する行事の会員として、学芸員をサポートしている市民の年齢が上ってきていることから、行事会員に蓄積したノウハウを円滑に引継ぐ会員を増やし、館や市の資源として定着させる必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成21年度 決算額	平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 予算額
事業内容		体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座等教育普及活動の実施	体験学習、各種講座等教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	353	351	1,617	650
	一般財源	22,382	20,607	37,533	40,433
事業費 (A)		22,735	20,958	39,150	41,083
執行率 (%)		95.95	95.21	98.73	
内訳	職員 (人)	3.85	3.30	3.05	3.03
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.70	0.70
人件費 (B)		32,171	27,255	27,070	26,668
フルコスト (A+B)		54,906	48,213	66,220	67,751

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成25年度の取組方針
教育普及活動を継続的に実施するとともに、調査活動の充実による情報資源の蓄積を継続します。また、子どもや、子どもを持つ親の世代に向けた展示や事業内容を行うことにより、事業に参加する世代の拡大を図り、蓄積したノウハウを円滑に引き継げるよう努めます。
課長コメント
市民協働で進めている活動の成果を定着させ、次世代、地域間へ「知」の循環を促すために、展示や普及事業等の見直しを図り、活動を活発に行います。併せてプラネタリウムを科学の世界への窓口として充実させます。